

# アムド・チベット語の使役\*

海老原 志穂

## はじめに

本稿は、アムド・チベット語の使役について述べる。アムド・チベット語は、中国青海省の全域（青海省南部の玉樹チベット族自治州を除く）、甘肅省南部の甘南チベット族自治州、同省の北東部に位置する天祝県、そして四川省の阿壩チベット族チアン族自治州の一部の県および甘孜チベット族自治州の一部の県で話されるチベット諸語の一種である。

本稿で提示するデータは、青海省海南チベット族自治州共和県（伝統的にはチャプチャと呼ばれている地域）で話されているアムド・チベット語を筆者自身が収集したものである（地図1参照）。

以下では、§1で「アムド・チベット語の類型的な特徴」、§2で「使役に関する先行研究」を紹介し、筆者の考察に関しては、§3「語彙的使役」、§4「迂言的使役」に分けて述べる。なお、アムド・チベット語には迂言的使役の表現は一種類しか存在しない。

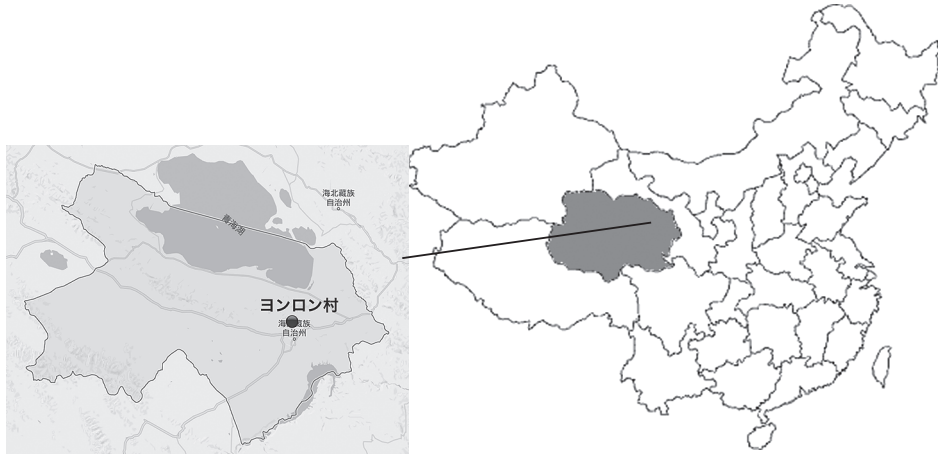
## 1. アムド・チベット語の類型的な特徴

アムド・チベット語の音節構造は  $(C_2)(C_1)(G)V(C_3)$  である。C は子音、V は母音を表す。C<sub>1</sub> は音節初頭子音が一つであることを、C<sub>2</sub>C<sub>1</sub> は音節初頭子音が連続して現れることを、C<sub>1</sub>G は音節初頭子音の後ろに渡り音が現れることを表す。C<sub>2</sub>C<sub>1</sub>G という連続も可能である。C<sub>3</sub> は音節末子音である。無声調の言語である。

自動詞文の語順は SV、他動詞文の語順は AOV を基本とする。名詞修飾では、形容詞を名詞の後に置く (N←ADJ)。動詞修飾では副詞は動詞の前に置く (ADV→V)。主に後置詞句を用いる言語である。接辞（接頭辞と接尾辞）、接語（後接語

\* 本稿のアムド・チベット語のデータの多くは、筆者の博士論文である海老原（2008）がもとになっている。コンサルタントは青海省海南チベット族自治州共和県ヨンロン村出身のロチ・ギャンツォ氏である。ロチ・ギャンツォ氏には、海老原（2008）の執筆にあたって全面的にご協力いただいた。一部の記述については、共和県ギャイ村出身のギャイ・ジャブ氏（青海師範大学教授）、共和県チェルジェ村出身のジャバ氏（中央民族大学教授）にご教示いただいた。記述がギャイ・ジャブ氏、ジャバ氏のご教示による際は、その旨を付記する。調査にご協力いただいたお三方にこの場を借りて御礼申し上げる。

本稿の記述に関わる調査は、日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究 (S)「チベット文化圏における言語基層の解明—チベット・ビルマ系未記述言語の調査とシャンジュン語の解読」(2005-2008、代表者 長野泰彦)、日本学術振興会科学研究費補助金 特別研究員奨励費 (DC1)「チベット語アムド方言の文法記述」(2005-2007)、および、日本学術振興会科学研究費補助金 若手研究 (B)「東西方言から見たチベット語の基層の研究」(2014-2018、代表者 海老原志穂)の一環として行われた。



地図1 中国における青海省の位置（右）と共和県のヨロン村（左）

のみ)を多用する点で膠着性が高い。接辞や接語の一部は異形態をもち、形態音韻的な交替を示す。

格標示は能格・絶対格型で、主に格助詞によって標示される（一部、ゼロ標示、母音交替もみられる）。

動詞はコピュラ動詞、存在動詞、状態動詞、動作動詞の4つに分かれる。コピュラ動詞にはウチとソトの2種類がある。動作動詞の一部は未完了、完了、命令によって屈折する。他の動詞は屈折しない。動詞は人称、性、数の一致をもたない。また定形と不定形という区別もない。これらの動詞が述語となる際には、通常、各種の助動詞（句）や動詞語尾、文末助詞が付加される。助動詞（句）は、アスペクト、エヴィデンシャリティ（証拠性）、モダリティ、ウチ・ソトなどを表す。動詞についての以上の特徴は他のチベット諸語の特徴ともおよそ一致する。

ヴォイスに関する特徴としては、使役表現はあるが、受動、逆受動、やりもらい表現はない。

## 2. 使役に関する先行研究

アムド・チベット語の使役に関する先行研究としてまとまったものには、札西才讓<sup>ツァン</sup> (2011)がある。この研究は、日本語とアムド・チベット語の使役の形態的、統語的、意味的、語用論的特徴を対照した研究である。主に、本稿でいう「迂言的使役」について扱い、アムド・チベット語の迂言的使役表現は、「直接関与（強制、好意、意地悪、思いやり、不本意）」、「間接関与（譲歩、放任）」、「非関与」いずれの解釈も可能であるとしている。ただし、同書で提示されている例文はほぼ全て、文末が動詞語幹で終わっており、アムド・チベット語としては不自然な

ものが多い。アムド・チベット語の自然発話では、コピュラ動詞や存在動詞、ウチの事態を表す場合などを除くと、文末にアスペクト、エヴィデンシャリティ、モダリティ、ウチ・ソトなどを表す助動詞（句）や動詞語尾、文末助詞が付加されることが一般的である。その点から、同書のアムド・チベット語の記述は言語学的に不完全なものと言わざるを得ない。

その他、アムド・チベット語の文法書（周毛草 2003, Haller 2004, 海老原 2010, ダムディンジョマ 2017 等）に使役表現の簡単な記述がある。

### 3. 語彙的使役

一部の動詞には、非使役動詞と使役動詞のペアに形態的な対応関係がみられる。これらのペアの多くは自動詞と他動詞のペアと一致しているが、kon「着る」— hkon「着せる」のような transitive「他動詞」— ditransitive「二重他動詞」のペアも一例みつがっている。

非使役動詞と使役動詞の形態的な対応には、以下の (i)–(vii) に示す初頭子音(群)の音韻的対応関係がみつかった。

- (i) 非使役動詞の初頭子音が無声有気音 — 使役動詞の初頭子音群が  $hC_1$  の子音連続
- (ii) 非使役動詞の初頭子音が無声有気音 — 使役動詞の初頭子音が無声無気音
- (iii) 非使役動詞の初頭子音が無声無気音 — 使役動詞の初頭子音群が  $hC_1$  の子音連続
- (iv) 非使役動詞の初頭子音群が前鼻音つき有声音 — 使役動詞の初頭子音が有声音
- (v) 非使役動詞の初頭子音が  $l$  — 使役動詞の初頭子音が  $dz$
- (vi) 非使役動詞の初頭子音が  $l$  — 使役動詞の初頭子音群が  $hts$
- (vii) 非使役動詞の初頭子音が  $ɬ$  — 使役動詞の初頭子音群が  $hts$

名音韻対応をもつ例を表 1 に示す。

表 1 非使役動詞と使役動詞の形態的な対応関係（未完了形を示す）

音韻対応関係	非使役動詞	使役動詞
(i)	$k^h\text{or}$ 「まわる」	$h\text{kor}$ 「まわす」
	$tɕ^h\text{ek}$ 「壊れる」	$htɕ\text{ok}$ 「壊す」
	$k^h\text{u}$ 「沸く」	$h\text{ku}$ 「沸かす」
	$tɕ^h\text{el}$ 「切れる」	$htɕ\text{ol}$ 「切る」
	$t^h\text{or}$ 「散る」	$h\text{tor}$ 「散らす」
(ii)	$ts^h\text{i}$ 「煮える」	$t\text{so}$ 「煮る」

(iii)	kon 「着る」	hkon 「着せる」
(iv)	ngu 「動く」	gu 「動かす」
	ndi 「集まる」	di 「集める」
	ndəp 「完成する」	dəp 「完成させる」
	ndzər 「変わる」	dzər 「変える」
(v)	lok 「倒れる」	dzok 「倒す」
(vi)	laŋ 「起きる」	htsoŋ 「起こす」
(vii)	ɬop 「学ぶ」	htsop 「教える」

#### 4. 迂言的使役

中央チベット語ラサ方言には複数の迂言的使役表現が存在するが<sup>1</sup>、アムド・チベット語で一般的に使われる迂言的使役表現は一種類のみである。

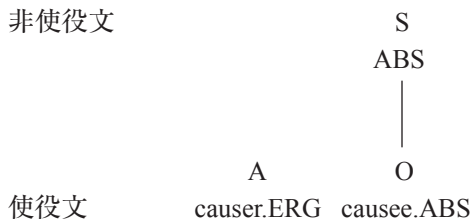
アムド・チベット語で使われる迂言的使役表現は、使役する動作を表す動詞に、「目的」を表す接続助詞である =Gə (=gə~=gi/=kə~=ki) を付し、その後に単独では「入れる」という意味を表す動詞 ndzək (未完了形) /zək (完了形) /çək (命令形) を伴って表す。(1) にその構造を示す。

- (1) V=Gə ndzək/zək/çək  
V=PUR 入れる .IPF/PF/IMP

使役は、2つの節からなる複文の一種であるという解釈も可能である。しかし、(1) 主節の動詞にあたるものが ndzək (未完了形) /zək (完了形) /çək (命令形) 「入れる」という動詞のみに限られており、(2) その主節の動詞自体は名詞項をとれないことから、本稿では使役を複文としては扱わない。

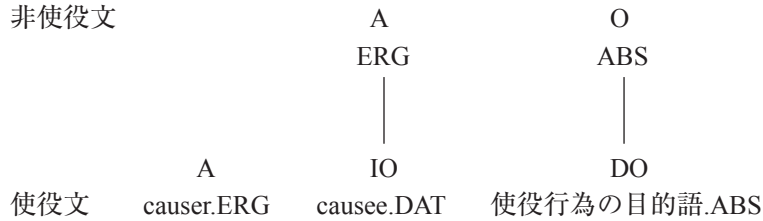
各名詞項の格標示は、使役化される動詞が自動詞か他動詞かで異なる。使役化される動詞が自動詞であれば、使役者 (causer) は「能格」、被使役者 (causee) は「絶対格」で現れる ((i))。使役化される動詞が他動詞であれば、使役者は「能格」、被使役者は「与格」、使役行為の目的語は「絶対格」で現れる ((ii))。

- (i) 自動詞を用いた使役



<sup>1</sup> -ru`cuu 「~させる、~なるままにする」、-ru`tan 「~の状態にする」という使役表現がある (星 2003: 53)。

## (ii) 他動詞を用いた使役



使役が「強制」であっても「許可」であっても格標示は変わらない。

使役は、使役表現を用いない非使役とヴォイスにおいて対立する。例文では、使役と対立する非使役の例文も示す。

以下では、§ 4.1「自動詞の使役」、§ 4.2「他動詞の使役」に分け、(a) 非使役文と (b) 使役文を対にして例示する。§ 4.1, § 4.2 では意志動詞の例のみを示すが、無意志動詞の使役も可能であり、それを § 4.3 で述べる。§ 4.4 では「使役の否定形」、§ 4.5 では「二重使役」を扱う。これらの使役の例文においては、使役者と被使役者が同一文中に表示された例を示す。

## 4.1. 自動詞の使役

最初に自動詞の使役の例を示す（例は (2)-(b), (3)-(b)）。

- (2) (a) sonam jar = a laŋ-dzi re.  
PSN 上=DAT 起きる [-NMLZ CO.P]FUT.O

ソナムは起きるだろう。

- (b) dordze = kə sonam jar = a laŋ = gə ndzək-dzi re.  
PSN=ERG PSN 上=DAT 起きる=PUR 入れる.IPF[-NMLZ CO.P]FUT.O

ドルジェがソナムを起こすだろう。

- (3) (a) ʎəndəp ʎas<sup>h</sup>a = a s<sup>h</sup>oŋ = zək.  
PSN PLN=DAT 行く.PF=IE

ルンドゥブはラサに行った。

- (b) ŋiʎəndəp ʎas<sup>h</sup>a = a ndzo = gə zək = taŋ-ŋa.  
1SG.ERG PSNPLN=DAT 行く.IPF=PUR 入れる.PF=ACMP-EGO

私はルンドゥブをラサに行かせた。

## 4.2. 他動詞の使役

次に他動詞の使役文の例を示す (例は (4)-(b), (5)-(b))。

- (4) (a)  $h\ddot{y}\ddot{a}nts^h o = k\ddot{a}$  sama si = zək.

PSN=ERG 食事 食べる.PF=IE

ユムツォが食事をとった。

- (b) sonam = k\ddot{a} h\ddot{y}\ddot{a}nts^h o = a sama sa = g\ddot{a} zək = zək.

PSN=ERG PSN=DAT 食事 食べる.IPF=PUR 入れる.PF=IE

ソナムはユムツォに食事をとらせた。

- (5) (a)  $\ddot{l}\ddot{a}nd\ddot{a}p = ki$  xit\ddot{c}^h a n\ddot{o}-d\ddot{z}i re.

PSN=ERG 本 買う.IPF[-NMLZ COP.O]<sub>FUT.o</sub>

ルンドゥップは本を買うだろう。

- (b) t\ddot{c}^h i \ddot{l}\ddot{a}nd\ddot{a}p = wa xit\ddot{c}^h a n\ddot{o} = g\ddot{a} \ddot{c}\ddot{a}k.

2SG.ERG PSN=DAT 本 買う.IPF=PUR 入れる.IMP

あなたはルンドゥップに本を買わせなさい。

## 4.3. 無意志動詞の使役

§ 4.1, § 4.2 では意志動詞の例のみを示したが, 無意志動詞の場合にも使役が可能である。以下では, 自動詞と他動詞の例を示す。

自動詞の無意志動詞は, 「形態的に対応関係のある他動詞をもつ有対自動詞」と, 「形態的に対応関係のある他動詞をもたない無対自動詞」どちらにも使役が可能である。

札西才讓 (2011: 51, 110) は, 有対無意志自動詞の使役形では, 「使役者の位置にある人間がマジシャンのような超能力の所有者である場合, 関与的な意味に解釈することが可能である」とし, これを「奇跡の引き起こし」と呼んでいる<sup>2</sup>。筆者の調査の範囲ではそのような用法はみつからなかった。ギャイ・ジャブ氏, ジャバ氏によると, 札西才讓 (2011: 51, 110) の (a) に相当する例文である (6)-(a) には「奇跡の引き起こし」の意味はなく, 「動作者が窓ガラスを直接的な働きかけではなく, 放置することによって壊した」ことを表す。ジャバ氏によると, 「超能力によって窓ガラスを壊した」場合には, 有対他動詞を用いた (6)-(b) を使っ

<sup>2</sup> 例えば, t\ddot{c}^h ek (札西才讓の表記では chak) 「壊れる」という有対無意志自動詞の使役の例 (a) には「奇跡の引き起こし」の意味があるとし, 「使役者である「彼」が一般的な常識では考えられない魔法をかけるなどの手段によって働きかけ, 「窓ガラス」を通常の状態から「壊れる」状態に変化させることを表す」と述べている (札西才讓 2011: 110)。(a) の音韻表記とクロスは札西才讓 (2011) に従う。

(a) k\ddot{h}eu 'geu xe 'go chak keu z\ddot{h}eug  
彼 geu 窓ガラス 壊れる keu z\ddot{h}eug (札西才讓 2011: 51, 110)

て表現するという。ただし、(6)-(b)は直接的な働きかけによって「窓ガラスを壊した」ことを表す文であり、この例ですぐに「奇跡の引き起こし」の意味が想起されるというわけではない。

- (6) (a) k<sup>h</sup>ərgi    çergo    tç<sup>h</sup>ek=kə    zək=taŋ=zək.  
3SG.ERG    窓ガラス    壊れる=PUR    入れる.PF=ACMP=IE

彼は窓ガラスを壊れさせた。

- (b) k<sup>h</sup>ərgi    çergo    tçek=taŋ=zək.  
3SG.ERG    窓ガラス    壊す.PF=ACMP=IE

彼は窓ガラスを壊した。

無対自動詞の場合、使役者と被使役者が異なる例の他 ((7)-(b)), 主語と目的語がともに2人称となる再帰的な表現も可能である ((8)-(b), (9)-(b))。再帰的な例では、主語は2人称能格形 tç<sup>h</sup>i であるが、主語は発話しないことのほうが自然である。

- (7) (a) ŋa    s<sup>h</sup>ən-dzi                    re.  
1SG    つまらない [-NMLZ    COP.O]<sub>FUT.O</sub>

わたしはつまらなくなるだろう [= 退屈するだろう ]。

- (b) dordze=kə    ŋa    s<sup>h</sup>ən=gə                    zək=taŋ=t<sup>h</sup>a.  
PSN=ERG    1SG    つまらない=PUR    入れる.PF=ACMP=DE

ドルジェが私をつまらなくさせた [= 退屈させた ]。

- (8) (a) hoŋwo    ŋar-gə.  
体                    熱い-EV

体が熱い。

- (b) hoŋwo    ŋar=gə    çək.  
体                    熱い=PUR    入れる.IMP

(あなたは) 体を熱くさせろ。

- (9) (a) s<sup>h</sup>em    htçək-kə.  
心                    楽しい-EV

心が楽しい。



- (b) s<sup>h</sup>em htɕək=kə ɕək.  
 心 楽しい=PUR 入れる.IMP  
 (あなたは) 心を楽しくさせろ。

他動詞の無意志動詞でも使役が可能である ((10)-(b), (11)-(b))。

- (10) (a) sonam=kə potala rək-kə.  
 PSN=ERG ポタラ宮 見える-EV  
 ソナムにはポタラ宮が見える。
- (b) ŋi sonam=ma potala rək=kə zək=taŋ-ŋa.  
 1SG.ERG PSN=DAT ポタラ宮 見える=PUR 入れる.PF=ACMP-EGO  
 私はソナムにポタラ宮を見せた。
- (11) (a) sonam=kə hkel ko-gə.  
 PSN=ERG 声 聞こえる-EV  
 ソナムには声が聞こえる。
- (b) dordze=kə sonam=ma hkel ko=gə zək=taŋ=ʰa.  
 PSN=ERG PSN=DAT 声 聞こえる=PUR 入れる.PF=ACMP=DE  
 ドルジェがソナムに声を聞かせた。

#### 4.4. 使役の否定形

使役の否定形は、主節の動詞にあたる ndzək (未完了形) /zək (完了形)「入れる」が構成する動詞句を否定形にすることで形成する ((12)-(b), (13)-(b), (14)-(b))。否定命令は、「入れる」の未完了形 ndzək を否定形にすることで表す ((15)-(b), (16)-(b), (17)-(b))。各例文では肯定形 (a) と否定形 (b) を対にして示す。

使役化される動詞を否定形にすることはできない。例は各例文の (c) として示す。

- (12) (a) dordze=kə sonam jar=a laŋ=gə ndzək-dzi re.  
 PSN=ERG PSN 上=DAT 起きる=PUR 入れる.IPF[-NMLZ COP.O]<sub>FUT.O</sub>  
 ドルジェがソナムを起こすだろう。
- (b) dordze=kə sonam jar=a laŋ=gə ndzək-dzi ma-re.  
 PSN=ERG PSN 上=DAT 起きる=PUR 入れる.IPF[-NMLZ NEG-COP.O]<sub>FUT.O</sub>  
 ドルジェはソナムを起こさないだろう。



- (c) \*dordzɛ=kə sonam jar=a mə-larj=gə ndzək-dzi re.  
 PSN=ERG PSN 上=DAT NEG-起きる=PUR 入れる.IPF[-NMLZ COPO]<sub>FUT.O</sub>  
 ドルジェはソナムを起こさないだろう。
- (13) (a) ŋi ʃəndəp ʃas<sup>h</sup>a=a ndzɔ=gə zək=tarj-ŋa.  
 ISG.ERG PSN PLN=DAT 行く.IPF=PUR 入れる.PF=ACMP-EGO  
 私はルンドゥブをラサに行かせた。
- (b) ŋi ʃəndəp ʃas<sup>h</sup>a=a ndzɔ=gə ma-zək.  
 ISG.ERG PSN PLN=DAT 行く.IPF=PUR NEG-入れる.PF  
 私はルンドゥブをラサに行かせなかった。
- (c) \*ŋi ʃəndəp ʃas<sup>h</sup>a=a mə-ndzɔ=gə zək=tarj-ŋa.  
 ISG.ERG PSN PLN=DAT NEG-行く.IPF=PUR 入れる.PF=ACMP-EGO  
 私はルンドゥブをラサに行かせなかった。
- (14) (a) sonam=kə ʃəndəp=wa sama sa=gə zək=zək.  
 PSN=ERG PSN=DAT 食事 食べる.IPF=PUR 入れる.PF=IE  
 ソナムはルンドゥブに食事をとらせた。
- (b) sonam=kə ʃəndəp=wa sama sa=gə ma-zək=zək.  
 PSN=ERG PSN=DAT 食事 食べる.IPF=PUR NEG-入れる.PF=IE  
 ソナムはルンドゥブに食事をとらせなかった。
- (c) \*sonam=kə ʃəndəp=wa sama mə-sa=gə zək=zək.  
 PSN=ERG PSN=DAT 食事 NEG-食べる.IPF=PUR 入れる.PF=IE  
 ソナムはルンドゥブに食事をとらせなかった。
- (15) (a) tɕ<sup>h</sup>i ʃəndəp=wa xitɕ<sup>h</sup>a ŋɔ=gə ɕək.  
 2SG.ERG PSN=DAT 本 買う.IPF=PUR 入れる.IMP  
 あなたはルンドゥブに本を買わせなさい。
- (b) tɕ<sup>h</sup>i ʃəndəp=wa xitɕ<sup>h</sup>a ŋɔ=gə ma-ndzək.  
 2SG.ERG PSN=DAT 本 買う.IPF=PUR NEG-入れる.IPF  
 あなたはルンドゥブに本を買わせるな。
- (c) \*tɕ<sup>h</sup>i ʃəndəp=wa xitɕ<sup>h</sup>a mə-ŋɔ=gə ɕək.  
 2SG.ERG PSN=DAT 本 NEG-買う.IPF=PUR 入れる.IMP  
 あなたはルンドゥブに本を買わせるな。

- (16) (a) tɕ<sup>h</sup>o tɕaŋ-dzi re.  
 2SG 寒い [-NMLZ COP.O]<sub>FUT.O</sub>  
 あなたは寒くなるだろう。
- (b) tɕ<sup>h</sup>o tɕaŋ=gə ma-ndzək.  
 2SG 寒い=PUR NEG-入れる.IPF  
 あなたを寒くさせるな [=寒くするな]。
- (c) \*tɕ<sup>h</sup>o mə-tɕaŋ=gə ɕək.  
 2SG NEG-寒い=PUR 入れる.IPF  
 あなたを寒くさせるな [=寒くするな]。
- (17) (a) tɕ<sup>h</sup>o htok-dzi re.  
 2SG お腹がすく [-NMLZ COP.O]<sub>FUT.O</sub>  
 あなたはお腹がすくだろう。
- (b) tɕ<sup>h</sup>o htok=kə ma-ndzək.  
 2SG お腹がすく=PUR NEG-させる.IPF  
 あなたはお腹をすかせるな。
- (c) \*tɕ<sup>h</sup>o mə-htok=kə ɕək.  
 2SG NEG-お腹がすく=PUR 入れる.IPF  
 あなたはお腹をすかせるな。

#### 4.5. 二重使役

アムド・チベット語では、「AがBにCに~させる [=AがBに命じてCに~させる]」という意味を表す二重使役は、自動詞の場合には可能であるが(例は(18)-(b)), 他動詞の場合には非文ではないものの不自然な文となる(例は(19)-(b))。他動詞の二重使役に対応する表現は、「AがBに言って、BがCに~させる」のように、節を分けて表したほうがより自然である(例は(19)-(c))。他動詞の二重使役は与格目的語が同一文中に2つ以上現れることになる。おそらく、アムド・チベット語では、与格が2つ現れることを好まない、つまり Comrie (1976: 277-284) のいう「二重間接目的語」(doubling on indirect object) を許さないために、これが不自然な文だとみなされるのだと思われる。

以下の例では、二重使役のもとになる使役表現を(a)として示す。

- (18) (a) sonam = kə ʃændəp ʃas<sup>h</sup>a = a ndzo = gə zək = taŋ = zək.  
 PSN=ERG PSN PLN=DAT 行く.IPF=PUR 入れる.PF=ACMP=IE  
 ソナムはルンドゥプをラサに行かせた。
- (b) ŋi sonam = ma ʃændəp ʃas<sup>h</sup>a = a ndzo = gə zək = taŋ-ŋa.  
 1SG.ERG PSN=DAT PSN PLN=DAT 行く.IPF=PUR 入れる.PF=ACMP=EGO  
 私はソナムにルンドゥプをラサに行かせた。
- (19) (a) ʃændəp = kə sonam = ma xitɕ<sup>h</sup>a ŋo = gə zək = taŋ = zək.  
 PSN=ERG PSN=DAT 本 買う.IPF=PUR 入れる.PF=ACMP=IE  
 ルンドゥプはソナムに本を買わせた。
- (b) ?ŋi ʃændəp = wa sonam = ma xitɕ<sup>h</sup>a ŋo = gə zək = taŋ-ŋa.  
 1SG.ERG PSN=DAT PSN=DAT 本 買う.IPF=PUR 入れる.PF=ACMP=EGO  
 私はルンドゥプにソナムに本を買わせた。
- (c) ŋi ʃændəp = wa ɕel = i sonam = ma xitɕ<sup>h</sup>a  
 1SG.ERG PSN=DAT 言う=SEQ PSN=DAT 本  
 ŋo = gə zək = taŋ-ŋa.  
 買う.IPF=PUR 入れる.PF=ACMP=EGO  
 私はルンドゥプに言って、ソナムに本を買わせた。

## まとめ

本稿では、アムド・チベット語の使役を語彙的使役と迂言的使役に分けて考察した。迂言的使役については、自動詞と他動詞、意志動詞と無意志動詞の使役とそれらの否定形の説明を行った。さらに、二重使役にも触れた。

俯瞰的な視点からみると、アムド・チベット語において、非使役動詞と使役動詞のペアに形態的な対応関係がみられるのは一部の動詞のみで、多くの動詞には迂言的使役が適応される。星（2016: 95）等を示されるチベット文語における非使役動詞と使役動詞の形態的ペアと比較すると、アムド・チベット語における非使役動詞と使役動詞の形態的ペアの数は非常に少ない。通時的には語彙的使役から、より規則的で生産性の高い、迂言的使役の使用が増加していると考えられる。この点については、今後、定量的な調査により検証しなければならない。

## 参考文献

- Comrie, Bernard 1976. The Syntax of Causative Constructions. In: Masayoshi Shibatani (ed.) *Cross-language Similarities and Divergence: Syntax and Semantics 6 The Grammar of Causative Constructions*, 261–312. New York: Academic Press.
- ダムディンジョマ 2017. 「チベット語アムド農民方言—音韻体系と文の基本構造」神戸市外国語大学, 博士論文.
- 海老原志穂 2008. 「青海省共和県のチベット語アムド方言」東京大学大学院, 博士論文.
- 海老原志穂 2010. 『アムド・チベット語の発音と会話』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.
- Haller, Felix 2004. *Dialekt und Erzählungen von Themchen: Sprachwissenschaftliche Beschreibung eines Nomadendialektes aus Nord-Amdo*. Bonn, VGH Wissenschaftsverlag.
- 星泉 2003. 『現代チベット語動詞辞典（ラサ方言）』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.
- 星泉 2016. 『古典チベット語文法：『王統明鏡史』（14世紀）に基づいて』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.
- 札西才讓 2011. 『日本語とアムド・チベット語の使役表現の対照研究』笠間書院.
- 周毛草 2003. 『瑪曲藏語研究』北京：民族出版社.

## 略号

本稿ではグロス中で、助動詞句を [ ] で囲い、[ ] の右下の外側にスモールキャピタルで助動詞句全体の意味・機能を示している。助動詞句は統語的には接語（または接辞）とコピュラ動詞・存在動詞の組み合わせで形成されるが、組み合わせられた構造全体で特定の文法的な意味・機能を表している。

-	接辞境界 (-の前後いずれかが接辞)	DE	現場観察
=	接語境界 (= の後が接語)	DEM	指示代名詞
*	非文	EGO	定着知
?	不自然な発話	ERG	能格
1	1 人称	EV	観察知
2	2 人称	FUT	未完了・非継続
3	3 人称	FUT.O	未完了・非継続 (ソト)
A	他動詞の主語	FUT.S	未完了・非継続 (ウチ)
ABS	絶対格	GEN	属格
ACMP	完了明示	IE	結果観察
ADJ	形容詞	IMP	命令形
ADV	副詞	IPF	未完了形
COP	コピュラ動詞	N	名詞
COPO	コピュラ動詞 (ソト)	NEG	否定
COPS	コピュラ動詞 (ウチ)	NMLZ	名詞化接辞
DAT	与格	O	他動詞の目的語
		PF	完了形

PL	複数	S	自動詞の主語
PLN	地名	SEQ	継起
PSN	人名	SG	単数
PUR	目的	V	動詞